

第10章 海に対する国民の理解と関心の醸成

第1節 海に対する国民の理解増進の必要性

我が国は、四面を海に囲まれ海から多くの恩恵を受けており、また、我が国の輸出入貨物の99.6%（2014年、トン数ベース）が船舶によって輸送されているなど、安定的な海上輸送の確保は、我が国の経済、国民生活を支える上で極めて重要なものである。しかしながら、国民の海に対する理解は必ずしも十分であるとは言えないのが現状である。

このような状況の中、2007年7月に施行された海洋基本法において、国民の間に広く海洋についての理解と関心を深める取組の必要性が規定され、また、2013年4月に閣議決定した新たな海洋基本計画においても、海洋に関する国民の理解増進のための取組について規定されたところである。

国民が海に親しむ機会を増やし、レジャーやクルーズ等の海洋観光分野を発展させるとともに、島国で資源に乏しい我が国の生命線ともいえる海運の現状及び重要性を理解してもらうため、効果的な海事思想の普及啓発活動が必要である。

第2節 海に対する国民の理解増進に向けた取組

(1) ジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞

海事産業に対する児童生徒の意識向上を図り、海や船への関心を高めることを目的として、（公財）日本海事広報協会の主催で全国の小中高校生を対象に海事産業に係る取材・調査をして新聞形式にまとめた作品を募集し、優秀作品を表彰している。

2014年度は合計380点の応募があり、2015年3月26日に審査委員としてアグネス・チャン氏等を招き、優秀作品の発表会及び表彰式が行われた。審査の結果、横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校4年藤井貴大さんの「見て、聞いて、体験した！フェリー新聞」が国土交通大臣賞を受賞した。



表彰式後の集合写真



「見て、聞いて、体験した！フェリー新聞」

(2) 海事産業に関する副教材

現行の学習指導要領において海運などの重要さは記述されておらず、小中学校の授業で海事産業について学ぶ機会は少ない。

このような現状を受け、（公財）日本海事広報協会が主催し、国土交通省及び海事関係団体の協力により、「海運」「船」「港」の重要性を盛り込んだ副教材を作成し、港湾都市の社会科教師らの協力のもと副教材を活用した授業を行っている。

2011年・2012年は広島県呉市、2013年・2014年は岡山県倉敷市において副教材を用いた授業をしているほか、作成した副教材を協力団体等のホームページで公開し、関心ある教師が自由に閲覧できるようにしている。



(3) 日本海洋少年団

日本海洋少年団は海洋国日本の時代の担い手である全国の青少年たちに「海に親しみ」、「海に学び」、「海に鍛える」をモットーとして1951年に設立された。団員数は1970年度の約32,000人をピークに年々減少し、現在は約3,000人となっている。そうした中で、将来の海洋国家日本を支える人材を育成するため、団員の数を「2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックまでに1万人に復活させる」ことを目標として全国的に活性化策を進めている。

●海洋少年団の活性化

海洋少年団は、2014年4月に舞鶴海洋少年団が3年ぶりに入団式が開催されたことを皮切りに、同年7月に佐伯、11月に高知で新団が設立された。

その他の地域においても、地域ごとに関係者が連携して少年団をサポートするプロジェクトチームが立ち上がっており、今後は、さらなる既存の少年団の活性化や神戸市、沖縄県うるま市、宮崎市、熊本市、鳥羽市等での新団設立に向けて準備や呼びかけがされており、全国で具体的に活性化が進んでいる。

また、子供たちに海洋少年団をより身近に感じてもらうため、イベントやパンフレット等に使用するマスコットキャラクターの作成も行われており、広報面においても力を入れている。



佐伯海洋少年団結団式



高知海洋少年団結団式

●第52回日本海洋少年団全国大会



全国の海洋少年団の団員と指導者が、一堂に会する海っ子最大の祭典「日本海洋少年団全国大会」が、2015年7月31日～8月2日までの3日間、東京の国立オリンピック記念青少年総合センター、東京海洋大学及び東京港(お台場海浜公園等)で開催される。



全国の団員との友情の輪を広げ、成長期にある青少年少女達の心身の健全な育成にとって、欠かすことの出来ない大切な大会となっており、手旗競技及びロープワーク競技等様々な競技が計画されている。

(4) 海洋観光・海を身近に懇談会

国民に海への関心を寄せていただき、クルーズ、マリレジャー等の海洋観光の振興させることにより、我が国の海事産業の発展を図ることを目的とし、旅客船事業者のほか、旅行業界関係者や学識経験者等有識者と意見交換を行う「海洋観光・海を身近に懇談会」を2014年9月に設置した。

●開催状況

第1回懇談会：2014年9月にマリレジャーの魅力
をテーマに、日本ヨット発祥の地
「葉山」で開催。

第2回懇談会：2014年10月に船旅の魅力
をテーマに、東京の離島の玄関口である「竹芝
棧橋」で開催。

第3回懇談会：2014年12月にクルーズの
魅力等をテーマに、横浜港に停泊中の「飛鳥
II船内」で開催。

第4回懇談会：2015年3月に海洋教育の
魅力等をテーマに、晴海埠頭に停泊中の「海
王丸船内」で開催。

第5回懇談会：2015年6月に身近なクル
ーズとして楽しむことができる観光船の
魅力等をテーマに、隅田川沿いに位置す
る「浅草」で開催。



上: 第1回懇談会
下: 第3回懇談会



●情報の発信

懇談会開催の際には、毎回、懇談会に先立ち、ヨットやクルーズ船等の体験乗船や船内見学等を実施しており、その模様については、懇談会の模様とあわせて、動画や画像を用いて、ホームページや当懇談会のFacebookで紹介している。

また、Facebookについては、懇談会以外にも、全国の海の魅力や最新のイベント情報等を発信しており、海事関係者のみならず、広く一般の方々に関心を寄せていただいている。



懇談会の出席者から
国民に向けたコメント動画
(Facebookで公開中)



海洋観光・海を身近に懇談会Facebook

https://www.facebook.com/umiwo_midikanikonndannkai

(5) 土曜学習応援団

2002年に完全学校週5日制がスタートして13年が経過しているが、子供たちの中には、必ずしも有意義に過ごせていない子供たちも存在している。

そうした中で、文部科学省では、子供たちの土曜日の豊かな教育環境の実現に向けて、多様な企業・団体・大学等の方々からの参画を得て、「土曜学習応援団」を組織し、実社会での経験や企業・団体・大学等の強みを生かした出前授業等を行う取り組みを推進している。

今般、国土交通省でも、未来を担う子供たちの可能性を最大限伸ばし、子供たちが社会で活躍する多くの大人に出会い、将来の夢や志を持って学ぶ機会の充実を図るため、出前授業等の実施や広報啓発の展開に積極的に取り組んでいくこととしている。

土曜学習応援団の活動は、各地で始まっています！

賛同企業・団体・大学等数 2015年4月30日現在 390
→ さらなる企業・団体・大学等の参画が必要！

子供たちの土曜日の豊かな教育環境の実現に向け、
皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

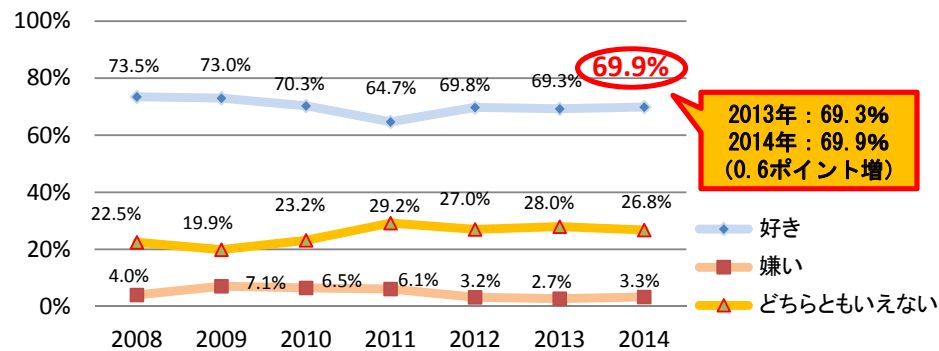


土曜学習応援団特設HP: <http://doyo.mext.go.jp/>

(6) 海に関する国民意識調査

(公財) 日本海事センターにおいて、2008年より実施している「海に関する国民意識調査」によると、2014年に「海が好き」と回答した人は、前年より0.6%ポイント上昇し、69.9%となった。また、年代別で見たところ、10代で「海が好き」と回答した人は、12.3%ポイント上昇し、69.2%となった。

あなたは海が好きですか？



出典: 公益財団法人 日本海事センター

- 海が好き理由→「落ち着く / 癒される / 心が和む」
- 嫌いな理由→「汚い / 汚れる / 臭いが嫌 / ベトベトする」

国土交通省海事局主催のイベント開催!!!

2015年3月21日～29日の9日間、東京都墨田区のすみだ水族館において、第7回海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣表彰）受賞者の「江戸っ子1号プロジェクト」等の協力のもと、「深海の世界と海の仕事を学ぼう！深海探査機『江戸っ子1号』特別展示inすみだ水族館」を開催しました。開催期間中、すみだ水族館への来場者は5万3千人を数え、本イベントのプログラムには延べ2万7千人の方々にご参加いただき、小・中学生を中心に多くの方々に深海の魅力や海や船の仕事について理解を深めていただきました。



江戸っ子1号実機の展示



船長体験撮影会

～イベント内容～

- 海と船のクイズラリー
- 海と船のキッズ教室（船のペーパークラフト）
- 「江戸っ子1号」実機展示
- 「江戸っ子1号プロジェクト」講演会
- 深海3D映像上映
- 真空成型実験
- 船長体験撮影会
- 「日本の暮らしを支える海、船、港」大型バックボード展示

「江戸っ子1号プロジェクト」は、下町の中小企業等が多数の機関の協力を得て、海洋を手軽に探求できる低コスト高性能の純国産海洋探査機「江戸っ子1号」を開発。2013年11月、世界初となる水深約8,000m海域での深海の3Dハイビジョン撮影に成功し、テレビや新聞等のマスコミでも大きく報じられた。



「江戸っ子1号プロジェクト」講演会



海と船のキッズ教室



参加記念品一例